



中村 優吾 (なかむら ゆうご) 片倉台小 4年生

作品名：奇跡の星「地球」

図 書：僕は46億歳

「僕は46億歳」という本を読みました。この本は、地球が誕生してから現代にかけての出来事を、一年間に当てはめて書かれている話です。人類が誕生したのは、十二月三十一日午後十一時にあたります。僕はこの「人類誕生」は、たくさんの奇跡が重なって生まれた事だと思います。

僕が考えた、一つ目の奇跡は、「地球」というすばらしい星が出来たことです。地球が誕生したころは、溶岩が吹き出す赤い海におおわれていました。しかし、水と大気は存在していたのです。これも、人類誕生に関わる奇跡だと思います。

二つ目は、月が出来た事です。一番有力なのは、火星ぐらいの大きさの小天体がしょうとつして、地球の一部が飛び散って月になったという説です。月がなかったら、生命が誕生しなかったかもしれません。今、人類は地球が太陽からのてきせつな位置にあるため生きていくことが出来ています。もしこの説が本当だとしたら、僕が思うには、月が出来て地球が今の位置になったとしたら、月が出来なかったら、太陽からのてきせつな位置から外れていて、今ごろ人類が生きていけないかんきょうだったかもしれないと思います。

三つ目は、細胞が生まれ、それから、シノアバクテリアとよばれる酸素を生み出す、生き物が生まれたことです。しかし、すぐに現代でいう災害が何でもくり返されたのです。けれども、地球のおかげもあって、生命は完全に消滅しませんでした。これも一つの奇跡だと思います。そして、おどろくほどの大進化をして、今の人間の祖先が生まれ、やっと人間に進化したのです。

僕たちは、自分の本当の産みの親の「地球」に対して、感しゃしなければならぬと思います。なのに、人間は火やガスや電気、原子力などを、思いのままに使い、地球が時間をかけて生み出した石油などの資源を、使い果たそうとしています。それこそ「人」という生命の、一番良い所である智慧を活かして、これらの問題をかい決しなければいけないと思います。今、世界かく地でテロや殺人事件などが起こっています。地球は、自分が生み出した生命が現代のようになってほしいとは望んでいないはずです。だから、少しでも多くの人が、今の自分の生活を見なおさなければ「平和」な、地球が望む世界になることは不可能でしょう。

この本の最後のページに、地球から「ありがとう」というメッセージが書かれています。しかし、現代のじょうきょうで、地球がありがとうという気持ちを心から思えるでしょうか?考えてみてください。平和で地球から「ありがとう」といわれる世界に、現代があてはまるかを。